

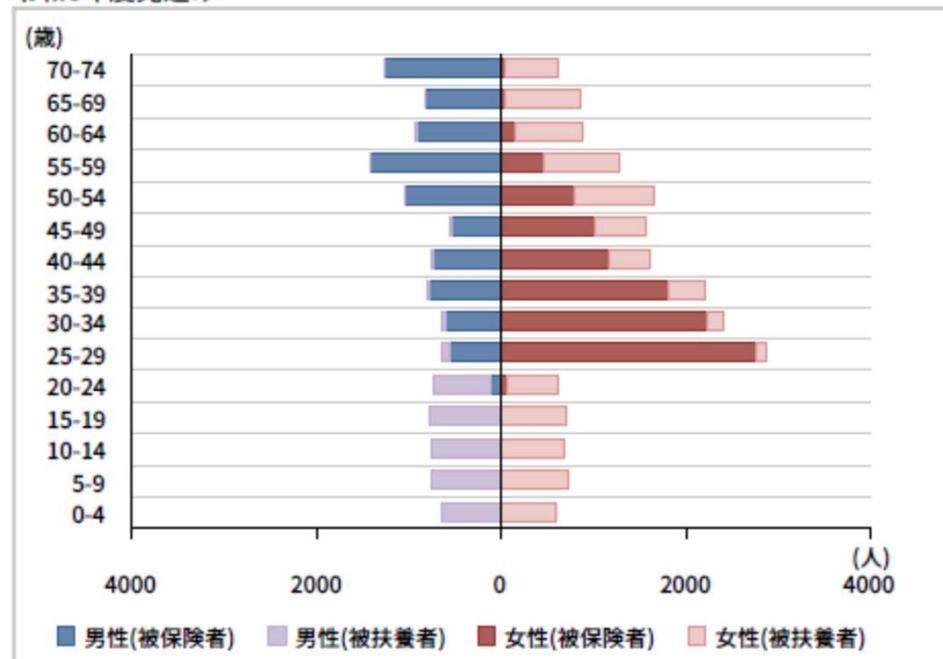
データヘルス計画 第3期計画書 (要約版)

2024年3月29日
全日本空輸健康保険組合

加入者構成

- ◆被保険者は女性の20～30歳代、男性の50歳代以降がボリュームゾーンであり、被保険者の男女とも平均年齢が上昇している。
- ◆航空運送事業の特徴として女性の比率が高く、男女ともに乗務員や空港スタッフなどのシフト勤務者が多い。
- ◆一般被保険者の94%が全日本空輸株式会社であり、その他に人数が少ない航空運送事業以外の会社が複数加入する。
- ◆特定健康保険組合として特例退職被保険者約2,000人と、同被扶養者約1,800人の合計約3,800人が加入している。

令和6年度見込み



データ分析結果からわかった健康課題

◆特定健診・特定保健指導

【特定健診】

被扶養者、特例退職被保険者の受診率は被保険者に比べて低迷している。
被扶養者は受診しない層が固定化している。特例退職被保険者の受診率は現役時代の半分程度まで低下している。

【特定保健指導】

健診受診から特定保健指導開始までの期間短縮が必要。

◆生活習慣病

医療費・患者数が増加傾向にあり、40歳代以降の男性(高血圧)に注意が必要。
積極的支援＋動機付支援＋情報提供(服薬あり)の割合が、他組合平均を上回っている。

◆がん対策

医療費や患者数は増加傾向にあるが、がん検診の受診率は国の目標に届いていない。

◆女性の健康

女性の加入者が過半数存在するため、女性特有の疾患に関する対策の強化が必要。

◆後発医薬品

使用状況は年々増加傾向にあるが、全国平均と比べると若干低位にある。

健康課題の解決に向けて

◆ANAグループ中期健康経営計画を推進する

ANAグループでは、2016年度の健康経営宣言以降、事業主と健康保険組合のコラボヘルスにより各種健康施策を推進してきた。その結果として、加入者の健康リテラシー向上や、特定健診の受診率・特定保健指導の実施率の向上などの成果が生まれてきている。

一方で、前項の「データ分析結果からわかった健康課題」を見れば、一定程度の前進がみられるものの、今後も継続して取り組むべき課題も多い。

これらの課題については、ANAグループ中期健康経営計画(2023~2029年度)にも反映しており、これまで以上に経営者、各社人事、産業保健スタッフ、健康保険組合が認識を合わせて協力して計画を実行していくことで、解決につなげていく。

※ANAグループ中期健康経営計画(2023~2029年度)は
Forest掲載の「Group Origin vol.286」を参照

以上